

第2回 北広島市長期総合計画審議会 議事録

■日 時 平成21年8月26日(水) 18:00~19:30

■会 場 芸術文化ホール活動室 1.2

■出席委員

村山紀昭会長、麻生昌裕委員、穴田廣光委員、伊藤寛委員、宇田川留美子委員、
内手進委員、鶴木一任委員、遠藤智恵子委員、大川壽雄委員、大木克夫委員、
大谷恵一委員、岡喜美江委員、岡本若子委員、桂裕章委員、小池隆史委員、
三瓶徹委員、杉本修委員、鈴木康熙委員、富田忠行委員、長井敏行委員、
根岸敏子委員、藤野伸之委員、榎武弘委員、森國聡委員、森永正造委員、
吉田俊一委員、吉田正男委員

■欠席委員

川島光行委員、菊池重敏委員、斎藤洸委員

■事務局

高橋通夫企画財政部長、木下信司総合計画課長、中屋直財政課長、
前野康弘総合計画課主査、川村裕樹総合計画課主任

■傍聴1人

開 会

配布資料を確認し、「委員の過半数が出席し、審議会が成立していること」を確認した。また、前回欠席していた委員を紹介した。

1 会長あいさつ

【会長】本日は、全体会議と専門部会の審議を行う。全体会議では、前回皆様から自由に述べてもらった意見等を踏まえながら、総合計画の基本的な方向性や考え方を議論する。3つの専門部会では、部会が担当する分野の枠組みや課題について議論をお願いしたい。第1回審議会の議事録は事前に配布しているので、前回の議論を活かした議論をお願いしたい。前回の審議会では、人口構成の問題が共通のベースにあった。今後のまちづくりにとって大きな問題であることから、最初に事務局から人口構成について説明してもらい、それから議論に入ることとする。

2 人口構成に関する補足説明について

【事務局】前回の審議会では意見をもらった人口構成や世帯などについて、資料に基づ

き説明する。

北広島市の将来推計人口については、レジュメのグラフの中位推計値で考えている。2020年度は62,773人、2030年60,030人、2035年57,391人となっている。男女を5歳階級別にピラミッド化すると、65歳以上の青い部分が非常に多くなり、14歳以下のピンクの部分は少なくなっている。人口は若干増えているが中身はこのような推計になっている。

世帯構成割合の推移では、昭和60年からの推移を載せてある。区分としては、その他の親族世帯、夫婦・子ども、ひとり親・子供、夫婦のみ、単身世帯としている。ひとり親と子供の世帯は微増していき、あとは夫婦のみの世帯、単身が増えていくというようなかたちで核家族化が進んでいる。平成17年度の世帯構成比率を石狩管内の市町村と比較すると、単身世帯が札幌市では非常に多く、北広島の単身世帯は割合的には若干少ない。次のページでは、母子世帯と父子世帯の推移を載せてある。

次は従業者数についてだが、市内に居住している方が市内で従業する人数、また市内に居住して市外で従業する人数という分類の表になっている。

次は給与収入と公的年金の推移である。給与収入は会社に勤める方などが対象で、自営業などの方は含まれない。平均給与収入については、平成16年から若干減ってきている。公的年金収入額については、年金の一元化等を含め、これから年金を受け取る方の収入は若干減るかたちとなっている。

【会長】 人口については細かく見ていくときりがないので、資料を見ていただき、このくらいの資料で一旦共通認識として持っていただければと思う。

総合計画について基本的な枠組みやどういう構成で考えられるのかなど、中身については特に基本的な目標や考え方を議論する必要がある。次期総合計画の基本的考え方について事務局から説明してもらおう。

3 次期総合計画の基本的考え方について

(1) 構成と期間について

【事務局】 総合計画は基本構想と基本計画と推進計画で構成される。根幹となる構想部分の計画期間は10年間、基本計画も同じ10年間、ただし社会情勢の変化をふまえ、中間で見直したいと考えている。推進計画は具体的な事務事業を示す計画だが、これは3年間の計画を作り、毎年ローリングという作業をして、次の3年間、そのまた次と作り直していくものである。

(2) 時代の潮流について

【事務局】 社会の経済情勢、地域を取り巻く環境は常に変化していることから、計画の策定に当たっては時代の潮流を捉えて、まちづくりを進める必要がある。

1 番目は「少子高齢化と人口減少社会」。少子高齢化の進行により、子育て能力の低下や地域のコミュニティが衰退する可能性がある。将来は就労人口が減り経済規模縮小や高齢者層が増えることで医療や介護、福祉の支出が増えると考えられる。

2 番目の「地方分権の進展」については、国から地方に権限、財源が移譲され、地方が担う役割は大きくなっていく。その中で地方自治体は市民と行政が対話を重ね、互いの目標を共有しながら行政運営を進めていく必要がある。

3 番目の「環境との共生」については、地球の温暖化、地球規模の環境問題が進行しており、これからは環境への負担が少ない、循環型社会への転換が求められている。省資源、省エネルギー、リサイクル推進する必要がある。

4 番目の「安全、安心への対応」については、集中豪雨などの自然災害、犯罪の増加、食品の不正表示等に対し、防災対策や食の安全を進める必要がある。

5 番目の「産業構造の変化」については、経済活動のグローバル化等の影響を受け、高付加価値型、または知識集約型という産業に転換しつつある。地域の活力を維持するために、地域経済の活性化や雇用機会の創出が重要になる。

6 番目の「価値観やライフスタイルの多様化」については、今後さらに進んでいくものと考えられる。これまで以上に生活の質を重視することや、一人ひとりの価値観に基づいたライフスタイルが尊重される社会の形成が求められている。

(3) 将来都市像について

【事務局】 将来都市像については、「自然と創造の調和した豊かな都市」を継続したいと考えている。自然や緑の中でいきいきとした市民の生活や活動、産業などが育つまちにしたいと考えている。大都市に近く自然が豊かで、国道やJRが通っているので交通利便性が高いなどの様々な個性を活かし、市民が住みやすい生活環境の形成に努めるとともに道央圏での機能を分担し、活力ある都市づくりを進めていく。

(4) 基本目標について

【事務局】 将来都市像の実現に向けて6つの基本目標を掲げている。

1 つ目は「環境と共生する安全なまち」で、環境に優しい循環型のまちをつくるとともに、安全で安心な市民生活が確保されるまちにする。

2 つ目は「人と文化を育むまち」で、人材教育や市民の交流、学習やスポーツの機会等があり、新たな市民文化が生まれるまちにする。

3 つ目は「支えあい健やかに暮らせるまち」で、市民が地域で支え合って健やか

に安心して生活ができ、子どもを安心して産み育てられる環境をつくる。

4つ目は「活力ある産業のまち」で、活力ある産業が営まれ、新たな産業が生まれ、なおかつ雇用を確保できるまちをつくる。

5つ目は「快適な生活環境のまち」で、住環境や道路整備などの都市基盤を充実させ、快適に生活できるまちをつくる。

6つ目は「計画の実現に向けて」、市民と行政が協働できるまちづくりや、行財政改革の推進により健全な行財政運営を持続できるまちをつくる。これらを図に表したものが次ページに載せてある。

(6) 土地利用について

【事務局】土地は限られた財産であり、経済活動等をする場合に不可欠な基盤になる。今後 10 年間の土地利用は、活力のある産業の振興や快適な生活環境の確保、これらが確保されるような土地利用に努める。また、既存の都市基盤を有効に活用することを考えている。自然と共生するまちをつくるためには、都市機能を集約する市街地と森林・農業地域がバランスを保つように、コンパクトなまちづくりを基調にし、市街地の無秩序な拡大については抑制していく。

住宅地域では、身近な緑に囲まれた住宅地の魅力を保全していく。災害に強く、生活の利便性や環境に配慮した住環境の整備を図る。また、低未利用地の有効活用を誘導していく。

商業・業務地域においては幹線道路沿いの業務地域に計画的な配置を進め、J R 北広島駅周辺の商業・交流機能をより集積させる。また、J R 上野幌駅周辺で駅機能を活かした商業・業務機能の立地を図る。

工業地域については、市街化区域内の主要幹線道路の沿道において、景観に配慮しながら、軽工業や流通施設などの誘致を図る。また、産業の活性化と雇用機会の創出を図るため、新たな工業団地の整備を検討する。

農業地域については、優良農地の保全・確保や農地の持つ多面的な機能の活用、農地の貸借等の推進によって有効利用を図る。遊休農地の他用途への転用を最小限にとどめ、農地としての活用を促進する。

森林地域については、森林の持つ環境保全や防災などの機能が十分発揮されるように保全・育成を進める。市の緑の骨格となる 3 つの森を積極的に保全する。

【会長】将来都市像について、またその実現のための基本目標について集中して議論したいと思う。感想でもよろしいが、いかがか。特にこの 10 年間でこの北広島市をどのようなまちにしたいか、またはしていくか。本日の議論だけでは完全に固まらないと思う。今後各部会で基本計画も含め議論し、フィードバックして全体会議で議論していく。市民にも理解してもらえるようになっているかなどの視点から意見をいただきたいと思う。

【委員】 20歳から60歳の稼働年齢層の部分が、メタボリックであればあるほど市の税収等の基盤になるが、これで行くとすでに逆三角形の状態である。完全に若年層が細くなっている。また高齢者がそれに反比例して増えている。これらを踏まえ、2011年からの10年計画をどう構築していくかを考えたとき、私は、まず市民にわかりやすい、若年層にも高齢層にもわかりやすい都市像を目指さねばということ。その都市像をどんなキャッチコピーで広めていくかということである。30年以上使っている表現だが、これは文言表現としては100点である。しかし、自然と創造ということで調べてみると、そこでやっと意味がわかる。現在、ほとんどの方が視覚で物事を判断するということが多くなってきたので、文言を解釈して理解するというよりは、わかりやすい表現にしてはどうか。

基本目標が6つに形成されているが、今、あるいはこれから何について市民の関心が高くなるかということ、環境と共生するまち、これも大事である。そして、6つの基本目標をどう実現していくかも大事である。おそらく市民の考えは、現在の経済状況を見て、個人と個人の生活に合わせて物事を考えていくというのが自然ではないか。そうすると6つの基本目標は、見せ方や出し方など、市民がより関心を持てるような並べ方のほうが良いのではないか。

【会長】 実際に我々がこのまちに暮らしていて、どんなまちにしようかと考えたとき、「自然と創造の調和したまち」というだけでは方向性は見えない。この見せ方も大事である。なぜ「環境と共生するまち」が1番に出てくるのか。多くの市民にとって、あるいはこのまちにとって、これが基本的な目標であるということは都市像とどうつながっていくのか、これが見えてこない。私も基本目標の見せ方は非常に大事だと思う。

【委員】 何事もアンテナを張っていなければ知ることができないということを最近とても感じている。最近、市民見学会に参加した。参加する前には北広島は緑の豊かなイメージばかりで、商業に関しては衰退していると感じていた。大曲には新聞印刷所が4社くらい集結していたが、工業団地に関してはすごく成功したと思う。市民見学会では、道新や防災センター、消防署も見たが、一番良かったのは卵のホクリョウさん。案内してくれたのは若い男性だったが、とても生き生きと紹介してくれた。北広島にはこんなに生き生きと働く若者がいて、こんなにいい会社があることを知った。

市民見学会ではまちの宣伝を一生懸命していた。市民見学会は、多くの方は参加はできないが、私のように口で宣伝して広げていけば、皆さんがこんなまちなんだと知ることができると感じている。

【会長】 今の計画を見て確認してもらいたい、「自然と創造の調和した豊かな都市」

の下に「健康安心都市」、「交流文化都市」、「活力発展都市」と3つ、もう少し具体化した都市像がある。今回の市のたたき台の中では提示されていない。私は前回と同じことをする必要はないと思うが、わかりやすいキャッチコピーが必要だと思う。イメージとしてはこの3つとは別なものもいいかも知れないが、このようなことを念頭に置きながら発言をお願いしたい。

【委員】 都市像についても、基本目標についても、まとめ方としては概ねこのような形であると思う。政策のところには各々しなければならないものが想定されてくる。基本目標が正しいか検証をする上で、想定される費用と、うまくいけば収入になるもののプラスとマイナスの要素を数値として置いてみて、そのバランスが合えば、基本目標はそのままでも良いと思う。あらゆるものは予算のかかるものが多く、施策で市の税収のプラスにつながるものがないとしたら、どれだけやろうとしても財源的にきつい。数値的な、定量的な検証をして、もう一度基本目標について考えてみるべきではないか。

【会長】 今の計画には重点プランというものがある。各部会では、基本計画や政策を議論してもらうが、その時に今の発言のようにあまり絵に描いた餅のような議論をしてもしょうがない。しかし、ある程度大きい議論にしなければならない。その上で財政的、政策的なものを見越して、全体の計画の中で重点的にこれを大事にしていくという、重点プラン的なものを全体会議でまとめる必要があるのかもしれない。

6つの基本目標があるが、環境も福祉も子育ても産業も大事だが、その施策で何を求めていくのか、この辺について発言をお願いしたい。たとえば基本目標の順序はこれでいいのかという意見もあったが、私もそう感じている。環境も大事だが少子高齢化という前回の議論を受けても、やはりまちに活気がなくなってきている現状ではないか。

【委員】 私はホームステイをしているNPOの活動をしている。昨年、団塊の世代の方が、北広島市に来て話をした中で印象に残ったことを話したいと思う。彼は、将来は北海道でレストランでも開きたいと考え北広島市に来た。北広島団地を走ったらしいが、活気がなかった。まちは非常にきれいで気に入る住宅もきれいだが、賑わいがないとのことで結果として別の場所を選んだ。

北広島市は自然環境に恵まれており、インパクトがある。市民の交流では住んでいる人達が最終的な自己決定をするという意味で、異質なものを入れないとどうしても活気が生まれてこないのではないか。これからは都市間競争になる。いいものをどんどん発信し、異文化を受け入れるということをしていけば少しは交流の助けになるのではないか。

【委員】 私も基本目標の順番については若干意見がある。最初に資料の4ページ、時

代の潮流については1番目に少子高齢化について書いてある。それと関連する形で話すが、今の計画の概要版の9ページを見ると、合計特殊出生率の推移があるが、全国平均、全道平均に比べ北広島市は常に低い。なぜ低いのかについての施策を考えるべきではないか。最初に持ってくるべきは、時代の潮流についての第1番目に掲げられているこういったテーマが大事なのではないかと考えている。

基本構想、基本目標については、それをどう推進計画につなげるかが非常に重要である。これを見ても推進計画を実施した結果、どういった具体的なものができあがったのか、活動がどの程度まで達したのかという評価がない。PDCAのサイクルを回すことが非常に重要なことではないかと感じている。

【委員】 前回計画の人口フレームは、村から町へ、町から市へと拡大し、伸び盛りだった。今回の計画は、人口が将来は減っていくという前提の計画だ。私はそれについて疑問を持ち、それでいいのかという気がしている。

私の職場にもこの辺りに住んでいる方は多い。若い人にとって大きな問題は産科がないということである。そういうものをもっと重点的に整備し、安心して子供を産める、育てる、まちの責任で保育園に入れるなど、そこの手当をきちんとやればそんなに悲観する必要もないと思う。人口が減っていくだけだという前提に立つ長期計画ではまずいという意見である。

札幌市には180万人くらい住んでいる。毎年結婚している人数はわからないが、札幌市の中心には家を持たず、郊外のどこか、恵庭、北広島などいい場所ならいくらでも行くし、それを吸収する政策をすればこんな悲観的になる必要はない。現在まで30年間成長してきたまちとして、悲観することではなくそういった志が必要な気がする。

【会長】 高度経済成長期のような計画はおかしいとは思いますが、右肩下がりがばかりのイメージで計画を作るのはいかがなものか。総合計画である以上、ある程度希望が見えるようなものが必要だと前回も言った。このまちの成長の度合いの先行きをどう見込むかは大事だと思う。

それからまちの性格をどうとらえるかが大切だ。産業を育むとしても北広島市は工業都市にはならない。簡単に言うと生活都市だと思う。しかし、産業なしでもいいのかというように考えるべきではない。

他から移住してくるというのも目標として、あるいは方向として追求しなければいけない。賑わいや交流、そういうことも含めてまちの活気が出てくると思う。しかし、工業都市になってそれが盛んになるとは思えない。まちの性格をどう見るかが大事である。

少子化問題についても避けて通れない。子育て環境がいいとか、手厚い対策がうたれているとか、高齢者に対する福祉については、高齢者が元気よく、さらには若い人も元気がいいなどと、本来はつながるべき話である。まちを支えていく層、ど

の辺に焦点を当てるか、もちろんすべてに向けなければならないが、その中でも少子高齢化を無視はできないので、子供とお年寄りに焦点を当てるのか、若者に焦点を当てるのか、という問題もある。

右肩下がりの時代にどういう成長を目指していくのか、やはり発展なしに計画はないと思う。

1 番目には着実な成長。どんな状況でも道内では珍しい着実に成長できるまちだと思っている。札幌に近いことを考えれば、他の地方に比べてとても恵まれている。これらを最大限に生かして、道内の元気のない都市の模範になるような、あり方を我々は追求すべきではないか。そういう意味では緩やかな、着実な成長というのは旗印として掲げる必要があるのではないか。

2 番目には生活交流。人々が生き生きと交流しあい、活気があるまちというのは色々な意味で追求する必要がある。産業や生活のあり方として、一つの柱になると思う。

3 番目には、これからの時代の中でやはり若い人々が希望や夢を持てるようなまちということを掲げてもいいのではないかと思う。

柱としてはこのようなことをイメージしてきた。今日の段階でもう少し私が言ったような整理でよろしいかどうか、意見があれば補強してもらいたい。

【委員】 北広島市に住んで 34 年になるがこのまちの特徴を考えると、やはりベッドタウンである。土地はあるが農家は後継者不足、就業者数もベッドタウンの特徴ではないかと思う。北広島市は 5 箇所に分散している。しかしそれぞれのつながりが全然ない。札幌市に頼りすぎてきた北広島市が、独特な市の特徴を出すまちを 10 年間でつくっていくということだが、一つ一つ作るのは大変だと感じている。財政的にはプラマイで言えばプラスになればいいのだが非常に難しい。

活気がないのも、一つは核家族になってしまったことが考えられる。どんどん若者が外に出ていく、それでは活気がない。小学校も統合されて、だんだん減っている。それらを解消する一つの形としては 2 世帯住宅の推進がいいのではないか。また、土地が十分活用されるやり方をまとめていかないと、本当に農業はなくなっていく。緑と土地がいいと言うだけで終わってしまうのではないか。10 年先のことを考えると、あまり明るい顔で歩けないのかなと感じている。

【会長】 産業分野のほうから発言はありませんか。

【委員】 私は生まれてからずっとここに住んでいるが、若いときには、今はゴルフ場になっている元砂利場にわき水が出ていたので競艇場でも作ってはどうかと思っていた。賛否両論あったが、収入が増えるのではないかという話もあった。今回、遊水地問題が出ているので、市民スケート場とか子どもが集まる場所、またふるさとなるような構想を持てばいいと思う。また、JR 北広島駅は降りて東口を見る

とすぐ畑となっており、これからは規制を緩和して宅地などにしていけばいいと思う。私としては、小樽のF1構想など、少し荒療治をしたほうがいいのではないかなと思う。

【会長】 女性でどなたか発言はありませんか。

【委員】 長く暮らしていると、よそから見てうらやましいとか、住みたいと思わせるようなまちにしたい。そういうことがこの審議会の趣旨となっているわけで、難しい言い方ではなく、見ただけでわかるような言葉、標語が必要である。

【会長】 現状を踏まえ、将来をイメージできるようなものでなければならない。札幌市の近くに位置しながら着実に成長する、環境を大事にしながら成長し続けるまち、伸びるまちというのは外さないほうがいいと思う。

2番目には活気と交流。これがいつもあるまちがいい。移住者とのふれあいも大切である。活気をどこに求めるかわかるようにするイメージが大事である。

3番目には子供と若者に焦点を置きたい。高齢者は人を育てる、若者が仕事に希望を持てるようなことを打ち出すべきである。

この3つくらいで整理できないかと思っている。今日の議論を議事録にして、それも参考にしながら、この後の部会で議論を重ねていき、それから全体会議へフィードバックして、素晴らしいキャッチコピーを整理できればいいと思っている。

私達の思いを総合計画の中で市民にアピールできるような短い言葉にまとめていきたい。参考までに現在の計画を見ると、3つの定義などはこの時代のもので、私はこれと違っていいと思う。状況は変わっている。しかし、その中で計画をつくる以上、夢を描くという姿勢を打ち出していきたい。これが議長としての思いである。10月に部会での議論を踏まえ、整理していきたいと思う。

閉 会